

東北地方太平洋沖地震被災地支援活動の記録

派遣職員 萩 田 匡 伸

所属 行 政 課

<p><u>1 派遣期間</u></p> <p>平成23年4月21日 ~ 平成23年4月30日</p>
<p><u>2 派遣先及び主な活動場所</u></p> <p>岩手県山田町</p>
<p><u>3 支援活動の内容及び活動の状況</u></p> <p>岩手県遠野市に設置されている静岡県現地支援調整本部へ第5次派遣隊として派遣され、岩手県内の被災市町（大槌町、山田町）への行政事務の補助等の支援を行う。</p> <p>第5次派遣隊は、26人（県職15人、市町職11人）で構成され、現地では、本部班（遠野市）、大槌町班、山田町班に分かれて活動となった。山田町班に配属となり、期間中は、山田町の保健センターへ宿泊しながら、主として税務課での事務補助を行った。内容は以下のとおり。</p> <p>(1) 町税務課での事務補助（家屋台帳と地番図のつつ合作業、罹災照明発行に係るデータ入力作業、罹災家屋の被害状況調査）</p> <p>(2) 避難所への物資配送</p>
<p><u>4 活動を通じて感じたこと</u></p> <p>昔から津波等の被害にさらされてきたためか、もともと防災意識は高い地域であると感じた。ただ、それでもなお、今回は多くの方が亡くなっている。</p> <p>今回の災害を何十年、何百年も記憶が薄まらないように後世に伝えていくことが大切だと感じた。</p>
<p><u>5 支援活動から見た被災状況など</u></p> <ul style="list-style-type: none">・岩手県沿岸部は、壊滅状態であった。山田町も同様であったが、地震による直接的被害は少なく、その後の津波と火災による被害がほとんどであるとのこと。・海岸部には3mから8m級の防波堤が設置されていたが、波はそれを簡単に乗り越えている。津波に押し流された家屋、車、船などにより道路が寸断され、消火活動もままならず、建物が燃えるのを見ているしかない状況だったとのこと。重機が入ったのは、震災から3日後だったという。・山田町では、自衛隊の屯所が町内にあったためなのか、自衛隊とは連携がスムーズにしているようだった。・支援物資が全国各地から届けられ、集積所に山となって積まれている。避難所へ配布したいが、人手が足りなく整理が追いつかないとのこと。・被災した市町の間において、既に復旧状況に差が出ている。山田町では、ガレキの集積場所の選定が早かったため、ガレキの撤去作業が比較的早く始まったが、いまだ手付かずの市町村も多い。